

# 北杜立長坂小学校自己評価書（後期）

校長 堀内正基

記述者 教頭 向井浩輔

＜本年度の学校教育目標＞

『自ら学び 進んで鍛え 共に伸びる 長小の子』

やさしい子 かしこい子 たくましい子 力を合わせる子

＜ 本年度の経営方針＞

- 1) 子どもたち一人ひとりを大切に、それぞれが学校生活に喜びを感じ、自主的・意欲的に学習に取り組む子どもを育てる。
- 2) 人権尊重の精神を基底に、教職員相互・教職員と子どもとの心と心のふれあう民主的な学校経営に努める。
- 3) 「知・徳・体」のバランスのとれた子どもの育成のため、学校教育目標の具現化を図る取り組みをする。
- 4) 不断の研修・実践を積み上げ、互いに磨き合い、高め合う中で教育観の確立と指導力の向上を図る。
- 5) 教育環境の整備・充実に努め、その機能を有効適切に生かし、教育効果の向上に努める。
- 6) 学校・家庭・地域が連携し、地域資源の活用を図ると共にキャリア教育の充実に努め、地域に信頼される開かれた学校づくりに努める。

## I 全体評価

自己評価を「学校教育目標・学校経営について」、「学校運営について」、「学習指導について」、「生徒指導について」、「地域との連携について」、「学校の特色に関して」の6観点からアンケートを基に行った（アンケートは、A：そう思う、B：ややそう思う、C：ややそう思わない、D：そう思わない、の4段階評価）。

教職員のアンケート結果を見ると、全47項目中、42の項目で90%（A+B）以上の肯定率を示している。児童のアンケート結果を見ても、全24項目中16項目において90%以上の肯定率、保護者についても全19項目中16項目について90%以上の肯定率を示している。これもまた高い肯定率である。

数値をみる限りは、肯定的評価の項目が児童、保護者とも一つずつ減ってはいるが、内容を見るときいずれも数%というごくわずかなものであり、全体的には前期に引き続き安定した学校運営であり、児童の学校生活も安定的な状態であるとする結果が得られている。以下、職員の評価を基に6つの観点から具体的に考察していく。

## II 各項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

### 1 「学校教育目標・学校経営について」

達成状況 全ての項目で、A（そう思う）またはB（ややそう思う）が90%以上の肯定的評価が得られている。このことから、「学校教育目標・学校経営について」は、充実したものになっていると考えられる。ただし、前期の反省と同様に、各項目は内容も広く、判断の基準も難しい。具体的に捉えられないものもあるため、常に学校経営方針および学年・学級の経営方針

	に立ち返り、教育活動を進めていく必要がある。
2「学校運営について」	
達 成 状 況	8項目の内、5項目で、A（そう思う）またはB（ややそう思う）が90%以上の肯定的評価が得られている。残りの3項目についても80%以上の肯定率であることから、円滑に「学校運営」が進められていると考える。個々に見てみると、「危機管理マニュアルを理解している」と「職員会議に積極的に関わっている」と「校内研究に主体的に関わっている」の肯定率が80%台であり、これも前期と同様である。数値としては前期よりも肯定率が高くなっているが、校内研究については低くなっている。
改 善 策	<p>危機管理についてはシチュエーションを変えながら具体的、実際的な訓練を繰り返し行ってきた。こうした回数を重ねる中で基本的な考えや動きが習得されてきていると考える。</p> <p>職員会議については、意見や質問をすることで積極的に関与しているとするものではない。決定したことに対してどう取り組んでいるかという判断基準を設定したい。</p> <p>校内研究の関わりについては、公開研究会を実施する過程で、それぞれの担当や分担に関わっての仕事を多くなり、共通理解を持って進めていく時間的な余裕がなかなか持てなかったと考える。しっかりと学校に根付く私たちの研究にしていくためにも来年度の課題として改善方法を考える必要がある。</p>
3「学習指導について」	
達 成 状 況	全ての項目で、A（そう思う）またはB（ややそう思う）が90%以上の肯定的評価が得られている。このことから「学習指導について」は、ほぼ充実していると考えられる。ただし、この領域については殆どの項目でA評価よりもB評価の方が高い数字となっている。また、担任以外は答えられない項目も少なからずある。
改 善 策	A評価よりもB評価の方が高い数字が出ていることについては、指導者が、日々の授業の中で学習指導の難しさを感じていることと考える。むしろ、自分たちの指導方法を謙虚に振り返りより良くしていこうとする気持ちと表れではないかと考える。引き続いて、校内研究で進めている授業改善プランに基づく授業をより充実させていきたい。
4生徒指導について」	
達 成 状 況	8項目の内、6項目で、A（そう思う）またはB（ややそう思う）が90%以上の肯定的評価が得られている。「キャリア教育を児童の実態に応じて行っている」、「学校は職員間で生徒指導上の課題を共有した対応をしている」については肯定的評価が80%台である。
改 善 策	前期と同様にキャリア教育の目標と現場とのつながりが明確に理解しにくいことがあると考える。学ぶための実践例が少ない実態があると考え。生徒指導については、きめの細かい連絡・報告・相談が必ずしも出来ているとは言えない。どこまでということはないが、深刻な問題でなければお互いに気になってはいるが、二の次になってしまうということもあるのではないだろうか。後手後手に回らないように、少なくとも現状の理解を関係の職員は共通に持っている必要がある。
5「地域との連携について」	

達成状況	<p>9項目全てで90%以上の肯定的評価が得られていることから「地域との連携について」は、ほぼ充実したものになっていると考えられる。前期と同様に保護者のアンケートからも「学校は保護者や地域の要望に応えようとしている」、「学年、学級からのお便りなどで学校のことが良く伝わっている」と感じている保護者が90パーセント以上いることが分かる。</p>
改善策	<p>学年・学級だよりが頻繁に出されている。定期に出していくことは大変なことであるが、その結果が保護者との連携に一役も二役も買っていることは間違いない。また、学校としても文書や会議を通して学校の出来事や考えをその都度発信している。今後も一方通行にならないように双方向的な関係をそれぞれに作っていくことが大切と考える。</p>
<p>6「学校の特色に関して」</p>	
達成状況	<p>6項目全てで90%以上の肯定的評価が得られている。特に、「学校は授業参観日や学校開放日を保護者や地域に伝え定期的に実施している。」、「学校は児童生徒が積極的に読書活動に取り組むよう指導に努めている。」、「学校は運動会等の学校行事に児童が進んで取り組むよう指導に努めている。」の3つの項目については高い肯定率を示している。</p>
改善策	<p>数字の上では本校の特色を生かした教育活動が展開されていると考えて良い。ただし本校の特色として取り組んでいるかどうかということ必ずしも一人ひとりの職員の捉えは同じではないと思われる。児童にも本校の一員としての自覚や誇りを持たせ自尊感情を高める意味でも、本校の特色について考えさせたい。職員も児童も折に触れ話題にしながら、時に時間をかけて考えるなどする継続的な取組をすることによって特色ある学校づくりに努めていきたい。</p>
<p>Ⅲ まとめ</p> <p>前期に引き続いて、職員の集計結果からは、学校経営の方針に沿った安定した教育活動が相対的に展開されていると考えてよい。また、児童のアンケート結果からも肯定的評価が多く見受けられ、保護者の反応もBを中心に肯定的な評価が多く、個々には課題はあるものの、本校の教育活動は全体を通して良好であり、学校経営の方針を踏まえた活動が展開されていると考えることができる。しかし、日常の取り組みの中には評価項目には表れない課題もあるし、児童一人ひとりに目を向けると更なる支援・指導の必要も感じる。</p> <p>いじめや不登校、学力向上等々、その時その時の山積する教育課題にいつの年も取り組んできている。今年度も、遠くには学校教育目標を目差しつつ、近くには目の前の大小様々な課題に一つ一つ真摯に取りくんできた成果がここにあると考える。今年度までの成果をそのままに定着させ、安定させ、よりよい長坂小学校の伝統を築いていきたい。</p>	